

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870105685
法人名	医療法人啓蟄会
事業所名	グループホームお城下
所在地	愛媛県松山市千舟町4丁目4番地5西田千舟町ビル
自己評価作成日	平成 25 年 10 月 15 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 25 年 10 月 24 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療連携、利用者にも、職員にもゆったりとした環境、一部の職員だけが楽しいのではなくチームアプローチを理解し協力して仕事をする気風
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

商業地の真ん中に建つビルの3階と4階に事業所はあり、母体法人の診療所は事業所の下階にある。急変時や夜間にも診療所ですぐに対応することができ、利用者や家族、職員のそれぞれに安心できる環境が整っている。職員は、事業所理念を具体的な支援方法に転換し、常に理念の実践を考えるようにしている。毎朝の清掃やその都度の消毒、窓を開けての換気などの清潔や臭気対策の徹底や感染症予防対策にも力を入れている。食事は毎食手作りされ、利用者は美味しい食事を楽しみにしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I.理念に基づく運営
- II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名	グループホームお城下
(ユニット名)	つる
記入者(管理者)	
氏名	木原弘美
評価完了日	平成 25 年 10 月 15 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) やさしいお城下の理念を、具体的にみんなで考え実践に反映している</p> <p>(外部評価) 理念を実践するために、管理者は職員にどう取り組んでいけばよいかを尋ねるようにしており、理念に沿った具体的な支援方法や手順を職員間で確認し合うようにしている。利用者の生活支援の中に、理念の実践が根づくように考えて取り組んでいる。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 商業地で難しいができる範囲で行っている</p> <p>(外部評価) 行事等をの撮影した写真を現像する写真屋が事業所の向かいにあり、顔なじみの関係となっている。地域の子も神輿が毎年訪ねてくれ、昨年子どもたちが利用者に手紙を書いてくれるようになり、時間をかけ地域との付き合いが深まってきている。事業所は商業地域に立地し、近隣はテナントや店舗ばかりのため、地域とのつきあいが難しい部分があり、地域に高齢者福祉について理解が進んでいない現状がある。</p>	今後、地域の小学校区で「認知症の理解」を進める講座を開催する予定があり、小学校の児童との交流も持ちたいと考えているため、開催を機に地域の福祉への理解と交流が深まることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 三番町子ども会府警の人たちに理解が深まっている</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議で外部の人からの提案を職員みんなで話し合って実現可能なものから実施している	
			(外部評価) 運営推進会議は利用者や家族、市担当者、地域包括支援センター職員、市社協職員、民生委員、他のグループホーム管理者等の参加を得て開催しており、多方面からの意見交換が行われている。会議は事前に議題や発表者を決めて参加を呼びかけ、参加者が会議に関心を持ち意見が出やすいように配慮している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議で毎回出席いただきご意見をいただいている	
			(外部評価) 市担当者や地域包括支援センター職員が運営推進会議に参加しており、事業所の報告や意見交換を行い、協力関係を築くよう努めている。日頃から困難事例等を相談しており、第三者に入ってもらうことで解決がスムーズに進むように心がけている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 理解して実践している御本人の気持ちになって考えることで実践に生かしている	
			(外部評価) 床を這って移動することも、利用者自身の力で動いていると捉えて支援しており、清潔に力を入れるとともに、ベッドは低床にしてマットを置いて自分で動けるようにしている居室もある。職員には身体拘束をしないケアについての資料が配布され、レポート提出などを通して理解を深めており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) ホーム内で話し合いをしている。また予防として職員の労働条件の改善を進めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 制度について勉強会をしている。現在1名利用中である	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居時のあわただしいときを避け、落ち着いた時期に十分に説明してから行っている。また、質問も受けている	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) ご利用者ご家族のご意見はできることからできるだけ早く実践している。できないことも誠実に説明し納得していただいている。 (外部評価) 開設当初から入居している利用者や長期の利用者が多く、年月をかけて職員は信頼関係を築いてきている。また、職員は年月を経ても、利用者との親しさにも節度を持って接することを心がけている。家族からの意見は、「教えてもらっている」と受け止め、記録に残して職員で共有し、反映できるように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 反映させている。実現可能なことから取り組んでいる	
			(外部評価) 職員に1人1役の役割を持ってもらうために、新聞や調理、レクリエーション、在庫管理などの委員会を設置して、責任をもって取り組めるようにしている。職員は、管理者がよく話を聞いてくれると感じており、勤務時間の調整など相談がしやすい関係ができています。代表者は事業所を毎日訪れ、管理者は代表者に毎日、報告と相談を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 努めている。短時間労働の取り組み、希望休の取り組み	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 進めている。最近は積極的に自分から研修を受ける職員も出ている	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 運営推進鍵を通して行っている	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) ご本人が馴染みやすいように、ゆっくりとホームになれるよう配慮している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) ご利用のはじめに見学していただいたりご家庭を訪問させていただいたりしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) ご希望をよく聞き、ホームで対応できるかどうかを見極め、他のサービスもご紹介している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) お話し合いによってできる範囲でのご協力はいただいている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) できる範囲で無理のないような協力関係	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 行っている。自由にご本人が家族に電話したり、ご家族と出かけたり外泊も行っている。	
			(外部評価) 介護記録に知人等の訪問の記録を残すよう心がけており、職員間での共有に努めている。現在の利用者の身体状況では、馴染みの場所などに出かけることが難しくなり、以前との関係を継続することは減ってきている。事業所の入っているビル1階のコンビニや訪問美容の店員などと、新たな馴染みの関係ができています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 特に決め事を造らないで自由に関わってもらっているが時にはボスの人が支持的態度になったりするので、職員が配慮している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) ご本人、ご家族の希望があれば行っている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) できるだけ自由で窮屈に無い生活方法をとってもらっている。	
			(外部評価) 重度化に伴い、会話のできる利用者が少なく、職員は利用者をよく観察して思いや意向をつかむよう努めている。また、利用者の自主性や自由な時間の使い方を尊重している。年齢や認知症が進むことで、生活のメリハリがつきにくくなるが、食事を重要視して支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 自然な生活の中から、すこしずつ把握するようにしている。深く追求しない方向で行っている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 努めている連携を取って記録に残し知りえた情報を職員が共有して援助に生かしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 月1回のモニタリングで、その人の必要な援助ができてい るか振り返りながらそのときに必要な援助ができるよう努 めている。	
			(外部評価) 月1回、職員間で介護計画の振り返りを行い、3か月ごと にモニタリングを行っている。管理者は、職員に介護記録 の書き方を指導しており、記録が計画や評価に活かせるよ う取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 行っている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 行っている。ご要望にしたがってできる範囲でサービスの紹介や利用方法などで情報提供している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 日課に当てはめない自分のできることを楽しんでできるよう自由時間が多くなっている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) ご家族御本人の希望どうりにしている。	
			(外部評価) 母体法人の診療所が事業所の下階にあり、定期的に往診 が行われ、利用者の健康管理をしている。診療所の専門外 の受診については、利用者が希望するかかりつけ医を受診 することができ、利用者が安心して医療が受けられる体制 を整えている。また、協力歯科医が往診にも対応してい る。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 行っているクリニックナースとの連携でご利用様の体調 の変化に速く対応できている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 努めている。ご本人ご家族の希望に沿って対応している。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 重度化に対応できるようにしだクリニックとの医療連携 で、お看取りまで行っている。入居時や時期に応じて主治 医、ナース、ケアマネでご家族との話し合いを行ってい る。	
			(外部評価) 利用者が重度化した場合の対応は、重要事項説明書や契約 書に記載しており、入居時に利用者や家族に説明してい る。また、支援が長期にわたる場合もあるので同意書を取 り、その都度医師や看護師から家族に説明するようにして いる。母体法人の診療所と24時間体制で連絡が取れ、協 力関係が築かれている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) すべてではないが行っている。色y連携しているクリニックとすばやく連携できるよう体制を整えている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 消防講習者2名消防訓練年2回常に事故を未然に防ぐ様に注意を払っている。またH25・4月に松山市指示によって消防計画が義務になった。消防計画を作成し、火災地震台風風水害に対応できるよう、努めている。	
			(外部評価) 消防署の協力を得て避難訓練を実施している。事業所がビルの3階4階であるため、訓練では消防署員から防火扉を閉めた先の階段の踊り場まで避難するよう助言を得ている。消防署へ直通の通報システムが設置されており、職員は密着隣接する他のビルの火災に対しても危機意識を持って、非常時の対応を常に確認するようにしている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 話し合いや、内部研修などで姓名の呼び方折り目正しい接し方を常に再認識するように努めている。	
			(外部評価) 日頃から居室のドアは開放しているが、着替えやおむつ交換の時にはドアを閉めて、利用者の羞恥心へ配慮して対応している。認知症ケアの研修を、職員は自主的に受講している。ケース記録は扉のある棚の中に片付け、個人情報が入りに付かないように配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者の気持ちを汲み取って小さなことからでも自己決定できる支援を目指している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 特に日課を決めなくて自分の時間帯で行動できるよう工夫している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 自分の好みで着たいものを着たいように選んでもらっている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食べやすいように調理して食べれるほどで入らないときは無理に勧めないようにしている。手伝いたいときは手伝ってもらったりもしている。	
			(外部評価) ユニット毎に献立を立て、3食とも職員手づくりの食事を提供している。食材は職員が買いに行ったり八百屋や魚屋が配達してくれている。管理者は、2つのユニットの食事を全品少量ずつ食べて、食事の味つけなどの確認をしている。体調や気持ちの変化により食事の時間が異なる利用者もいるが、時間がずれても利用者に合わせて食事を温め直し、美味しさと栄養に配慮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 行っている食べやすい形状の調理トロミ剤の利用など	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) ご自分で出来る方は自分で出来ない方は介助で行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 可能な方はトイレ介助、できる範囲でオムツ利用やパ ンツなど柔軟に対応している。	
			(外部評価) 利用者の重度化が進み、オムツを使用している利用者がほ とんどであるが、オムツの不快感が少しでも軽減されるよ うに心がけている。特に、オムツの交換時において皮膚 の清潔保持のために、微温湯できれいに洗い流すなど、気 をつけて取り組んでいる。また、感染症から身を守るため に、手袋の使用をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物 の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じ た予防に取り組んでいる	(自己評価) 食べ物の工夫、運動の工夫、動けにくい方は腹部マッサー ジなど自然排便を促す努力をしている。また緩下剤も利用 している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて 入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日 や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じ た入浴の支援をしている	(自己評価) 毎日入浴を行い。できるだけ入浴回数を多くしている。	
			(外部評価) 利用者は2～3日に1回を基本として入浴できるように支 援している。毎日入浴したい利用者には、希望に応えるよ う努めている。浴室には入浴用リフトが設置され、浴槽を またぐのが困難な利用者には、職員2人体制で介助を行っ ている。好みのシャンプーやボディソープを使っている 利用者もおり、一人ひとりに合わせた支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に 応じて、休息したり、安心して気持ちよく 眠れるよう支援している	(自己評価) 基本的に食事の時間以外は日課は定めず、すいみん時間も 無理強いをしていない。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 状態や体調は常に申し送りをして小まめに確認し主治医に相談をして指示をもらっている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 自由日課なのでしたいことをしたいときにしてもらっている。手伝ってもらったらかならず御礼の言葉を忘れないようにして、達成感を味わってもらっている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) ご家族にも協力していただき生きたいところへ言ってもらっている。職員の介助で外出も行っている。	
			(外部評価) 銀天街や高島屋での買い物やお茶を楽しんだり、公園に出かけたりできるよう支援している。一度に利用者全員で出かけることは難しい状況になってきているため、日を変えて2～3名ずつ順番に外出するようにしている。事業所に入っているビル1階のコンビニには毎日出かける利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) わかる犯意で小口預かり金から持ってもらい小さな買い物を楽しんでもらっている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 基本的に自由である。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 清潔な環境を一番に考えて、固唾居て明るい感じにしている。動きやすく転倒などにつながらないような整頓された環境に勤めている。</p> <p>(外部評価) 利用者の重度化が進んでいるため、少しでも利用者自身で動けるように、廊下や床には障害物となるようなものを置かないように配慮している。清潔やにおいては特に気を付けており、毎朝の清掃や消毒、窓を開けての換気を徹底し、利用者が気持ちよく過ごせるようにしている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 特に限られた環境の中でストレスとならないようにお席を工夫している。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) ご自分の好みのようにしていただいているが、あまり衛生的でないときはご家族にも入ってもらって改善してもらうようにしている。</p> <p>(外部評価) 居室はベッド、クローゼット、エアコン、ナースコールが備え付けられている。居室も清潔さを保つために職員が清掃を行っており、すっきりと整頓されている。衣替えは家族の協力を得て行っている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) できることを無理なくしてもらっている。</p>	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870105685
法人名	医療法人啓蟄会
事業所名	グループホームお城下
所在地	愛媛県松山市千舟町4丁目4番地5西田千舟町ビル
自己評価作成日	平成 25 年 10 月 15 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 25 年 10 月 24 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療連携、利用者にも、職員にもゆったりとした環境、一部の職員だけが楽しいのではなくチームアプローチを理解し協力して仕事をする気風
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

商業地の真ん中に建つビルの3階と4階に事業所はあり、母体法人の診療所は事業所の下階にある。急変時や夜間にも診療所ですぐに対応することができ、利用者や家族、職員のそれぞれに安心できる環境が整っている。職員は、事業所理念を具体的な支援方法に転換し、常に理念の実践を考えるようにしている。毎朝の清掃やその都度の消毒、窓を開けての換気などの清潔や臭気対策の徹底や感染症予防対策にも力を入れている。食事は毎食手作りされ、利用者は美味しい食事を楽しみにしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームお城下

(ユニット名) かめ

記入者(管理者)
氏名 福島真理

評価完了日 平成 25 年 10 月 15 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) お城下の理念はやさしい言葉で表されているが、お城下の理念を、具体的にみんなで考え実践に反映している。また、在宅系の考え方で、支援の循環を考えながら、在宅から入所、入所から在宅と開かれた施設であることを認識しながら援助を進めている。</p> <p>(外部評価) 理念を実践するために、管理者は職員にどう取り組んでいけばよいかを尋ねるようにしており、理念に沿った具体的な支援方法や手順を職員間で確認し合うようにしている。利用者の生活支援の中に、理念の実践が根づくように考えて取り組んでいる。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 商業地で難しいができる範囲で行っている</p> <p>(外部評価) 行事等をの撮影した写真を現像する写真屋が事業所の向かいにあり、顔なじみの関係となっている。地域の子も神輿が毎年訪ねてくれ、昨年子どもたちが利用者に手紙を書いてくれるようになり、時間をかけ地域との付き合いが深まってきている。事業所は商業地域に立地し、近隣はテナントや店舗ばかりのため、地域とのつきあいが難しい部分があり、地域に高齢者福祉について理解が進んでいない現状がある。</p>	今後、地域の小学校区で「認知症の理解」を進める講座を開催する予定があり、小学校の児童との交流も持ちたいと考えているため、開催を機に地域の福祉への理解と交流が深まることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 三番町子ども会府警の人たちに理解が深まっている</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議で外部の人からの提案を職員みんなで話し合って実現可能なものから実施している</p> <p>(外部評価) 運営推進会議は利用者や家族、市担当者、地域包括支援センター職員、市社協職員、民生委員、他のグループホーム管理者等の参加を得て開催しており、多方面からの意見交換が行われている。会議は事前に議題や発表者を決めて参加を呼びかけ、参加者が会議に関心を持ち意見が出やすいように配慮している。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議で毎回出席いただきご意見をいただいている</p> <p>(外部評価) 市担当者や地域包括支援センター職員が運営推進会議に参加しており、事業所の報告や意見交換を行い、協力関係を築くよう努めている。日頃から困難事例等を相談しており、第三者に入ってもらうことで解決がスムーズに進むように心がけている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 理解して実践している御本人の気持ちになって考えることで実践に生かしている</p> <p>(外部評価) 床を這って移動することも、利用者自身の力で動いていると捉えて支援しており、清潔に力を入れるとともに、ベッドは低床にしてマットを置いて自分で動けるようにしている居室もある。職員には身体拘束をしないケアについての資料が配布され、レポート提出などを通して理解を深めており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) ホーム内で話し合いをしている。職員同士の連携をふかめ、また予防として職員の労働条件の改善を進めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 制度について勉強会をしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居時のあわただしいときを避け、落ち着いた時期に十分に説明してから行っている。また、質問も受けている	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) ご利用者ご家族のご意見はできることからできるだけ早く実践している。できないことも誠実に説明し納得していただいている。 (外部評価) 開設当初から入居している利用者や長期の利用者が多く、年月をかけて職員は信頼関係を築いてきている。また、職員は年月を経ても、利用者との親しさにも節度を持って接することを心がけている。家族からの意見は、「教えてもらっている」と受け止め、記録に残して職員で共有し、反映できるように努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 反映させている。実現可能なことから取り組んでいる。各委員会に所属する事によって、運営に参加している意識を持ってもらいやすくしている。	
			(外部評価) 職員に1人1役の役割を持ってもらうために、新聞や調理、レクリエーション、在庫管理などの委員会を設置して、責任をもって取り組めるようにしている。職員は、管理者がよく話を聞いてくれると感じており、勤務時間の調整など相談がしやすい関係ができています。代表者は事業所を毎日訪れ、管理者は代表者に毎日、報告と相談を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 努めている。短時間労働の取り組み、希望休の取り組み。研修によって理解を深めてもらっている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 進めている。最近は積極的に自分から研修を受ける職員も出ている	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 運営推進鍵を通して行っている	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) ご本人が馴染みやすいように、ゆっくりとホームになれるよう配慮している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) ご利用のはじめに見学していただいたりご家庭を訪問させていただいたりしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) ご希望をよく聞き、ホームで対応できるかどうかを見極め、他のサービスもご紹介している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) お話し合いによってできる範囲でのご協力はいただいている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) できる範囲で無理のないような協力関係	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 行っている。自由にご本人が家族に電話したり、ご家族と出かけたり外泊も行っている。 (外部評価) 介護記録に知人等の訪問の記録を残すよう心がけており、職員間での共有に努めている。現在の利用者の身体状況では、馴染みの場所などに出かけることが難しくなり、以前との関係を継続することは減ってきている。事業所の入っているビル1階のコンビニや訪問美容の店員などと、新たな馴染みの関係ができています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 特に決め事を造らないで自由に関わってもらっているが時にはボスの人が支持的態度になったりするので、職員が配慮している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) ご本人、ご家族の希望があれば行っている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) できるだけ自由で窮屈に無い生活方法をとってもらっている。	
			(外部評価) 重度化に伴い、会話のできる利用者が少なく、職員は利用者をよく観察して思いや意向をつかむよう努めている。また、利用者の自主性や自由な時間の使い方を尊重している。年齢や認知症が進むことで、生活のメリハリがつきにくくなるが、食事を重要視して支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 自然な生活の中から、すこしずつ把握するようにしている。深く追求しない方向で行っている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 努めている連携を取って記録に残し知りえた情報を職員が共有して援助に生かしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 月1回のモニタリングで、その人の必要な援助ができてい るか振り返りながらそのときに必要な援助ができるよう努 めている。	
			(外部評価) 月1回、職員間で介護計画の振り返りを行い、3か月ごと にモニタリングを行っている。管理者は、職員に介護記録 の書き方を指導しており、記録が計画や評価に活かせるよ う取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 行っている。個別記録の大切さをモニタリングのたびに振 り返る事で認識されてきている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 行っている。ご要望にしたがってできる範囲でサービスの紹介や利用方法などで情報提供している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 日課に当てはめない自分のできることを楽しんでできるよ うに自由時間が多くなっている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) ご家族御本人の希望どうりにしている。	
			(外部評価) 母体法人の診療所が事業所の下階にあり、定期的に往診 が行われ、利用者の健康管理をしている。診療所の専門外 の受診については、利用者が希望するかかりつけ医を受診 することができ、利用者が安心して医療が受けられる体制 を整えている。また、協力歯科医が往診にも対応してい る。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 行っているクリニックナースとの連携でご利用様の体調 の変化に速く対応できている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 努めている。ご本人ご家族の希望に沿って対応している。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 重度化に対応できるようにしだクリニックとの医療連携 で、お看取りまで行っている。入居時や時期に応じて主治 医、ナース、ケアマネでご家族との話し合いを行ってい る。	
			(外部評価) 利用者が重度化した場合の対応は、重要事項説明書や契約 書に記載しており、入居時に利用者や家族に説明してい る。また、支援が長期にわたる場合もあるので同意書を取 り、その都度医師や看護師から家族に説明するようにして いる。母体法人の診療所と24時間体制で連絡が取れ、協 力関係が築かれている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) すべてではないが行っている。色y連携しているクリニックとすばやく連携できるよう体制を整えている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 消防講習者2名消防訓練年2回常に事故を未然に防ぐ様に注意を払っている。またH25・4月に松山市指示によって消防計画が義務になった。消防計画を作成し、火災地震台風風水害に対応できるよう、努めている。	
			(外部評価) 消防署の協力を得て避難訓練を実施している。事業所がビルの3階4階であるため、訓練では消防署員から防火扉を閉めた先の階段の踊り場まで避難するよう助言を得ている。消防署へ直通の通報システムが設置されており、職員は密着隣接する他のビルの火災に対しても危機意識を持って、非常時の対応を常に確認するようにしている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 話し合いや、内部研修などで姓名の呼び方折り目正しい接し方を常に再認識するように努めている。	
			(外部評価) 日頃から居室のドアは開放しているが、着替えやおむつ交換の時にはドアを閉めて、利用者の羞恥心へ配慮して対応している。認知症ケアの研修を、職員は自主的に受講している。ケース記録は扉のある棚の中に片付け、個人情報が入りに付かないように配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者の気持ちを汲み取って小さなことからでも自己決定できる支援を目指している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 特に日課を決めなくて自分の時間帯で行動できるよう工夫している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 自分の好みで着たいものを着たいように選んでもらっている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食べやすいように調理して食べれるほどで入らないときは無理に勧めないようにしている。手伝いたいときは手伝ってもらったりもしている。	
			(外部評価) ユニット毎に献立を立て、3食とも職員手づくりの食事を提供している。食材は職員が買いに行ったり八百屋や魚屋が配達してくれている。管理者は、2つのユニットの食事を全品少量ずつ食べて、食事の味つけなどの確認をしている。体調や気持ちの変化により食事の時間が異なる利用者もいるが、時間がずれても利用者に合わせて食事を温め直し、美味しさと栄養に配慮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 行っている食べやすい形状の調理トロミ剤の利用など	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) ご自分で出来る方は自分で出来ない方は介助で行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 可能な方はトイレ介助、できる範囲でオムツ利用やパ ンツなど柔軟に対応している。	
			(外部評価) 利用者の重度化が進み、オムツを使用している利用者がほ とんどであるが、オムツの不快感が少しでも軽減されるよ うに心がけている。特に、オムツの交換時においてや皮膚 の清潔保持のために、微温湯できれいに洗い流すなど、気 をつけて取り組んでいる。また、感染症から身を守るため に、手袋の使用をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物 の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じ た予防に取り組んでいる	(自己評価) 食べ物の工夫、運動の工夫、動けにくい方は腹部マッサー ジなど自然排便を促す努力をしている。また緩下剤も利用 している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて 入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日 や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じ た入浴の支援をしている	(自己評価) 毎日入浴を行い。できるだけ入浴回数を多くしている。	
			(外部評価) 利用者は2～3日に1回を基本として入浴できるように支 援している。毎日入浴したい利用者には、希望に応えるよ う努めている。浴室には入浴用リフトが設置され、浴槽を またぐのが困難な利用者には、職員2人体制で介助を行っ ている。好みのシャンプーやボディソープを使っている 利用者もおり、一人ひとりに合わせた支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に 応じて、休息したり、安心して気持ちよく 眠れるよう支援している	(自己評価) 基本的に食事の時間以外は日課は定めず、すいみん時間も 無理強いをしていない。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 状態や体調は常に申し送りをして小まめに確認し主治医に相談をして指示をもらっている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 自由日課なのでしたいことをしたいときにしてもらっている。手伝ってもらったらかならず御礼の言葉を忘れないようにして、達成感を味わってもらっている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) ご家族にも協力していただき生きたいところへ言ってもらっている。職員の介助で外出も行っている。	
			(外部評価) 銀天街や高島屋での買い物やお茶を楽しんだり、公園に出かけたりできるよう支援している。一度に利用者全員で出かけることは難しい状況になってきているため、日を変えて2～3名ずつ順番に外出するようにしている。事業所に入っているビル1階のコンビニには毎日出かける利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) わかる犯意で小口預かり金から持ってもらい小さな買い物を楽しんでもらっている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 基本的に自由である。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 清潔な環境を一番に考えて、固唾居て明るい感じにしている。動きやすく転倒などにつながらないような整頓された環境に勤めている。	
			(外部評価) 利用者の重度化が進んでいるため、少しでも利用者自身で動けるように、廊下や床には障害物となるようなものを置かないように配慮している。清潔やにおいては特に気を付けており、毎朝の清掃や消毒、窓を開けての換気を徹底し、利用者が気持ちよく過ごせるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 特に限られた環境の中でストレスとならないようにお席を工夫している。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) ご自分の好みのようにしていただいているが、あまり衛生的でないときはご家族にも入ってもらって改善してもらうようにしている。	
			(外部評価) 居室はベッド、クローゼット、エアコン、ナースコールが備え付けられている。居室も清潔さを保つために職員が清掃を行っており、すっきりと整頓されている。衣替えは家族の協力を得て行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) できることを無理なくしてもらっている。	